

近江牛の逸話

もうす!

講談を通して近江牛と竜王町の関わりを
発信していく講談師の玉田玉秀斎さん
(滋賀県竜王町小口・町防災センター)



日本三大和牛の近江牛の歴史や逸話を盛り込んだ講談を、「近江牛発祥の地」である滋賀県竜王町と人気講談師の玉田玉秀斎さん(41)がつくった。記憶に残りやすい語りでの伝統芸能を通して、町民には誇りをもってもらい、首都圏には竜王の名前を売り込む。10月3日、町防災センター(同町小口)で披露する。

町の魅力を発信する「まるごとスキヤキプロジェクト」の一環。玉田さんは町から提供を受けた本や資料、竜王ゆかりの名店「近江牛 毛利志満」(近江八幡市)の森嶋篤雄社長(69)らへの取材を基に、蒲生郡苗村山之上(現在の竜王町)

江戸普及物語 講談師・玉田さんと竜王町創作

来月3日披露 「発祥地」魅力伝える

出身で明治時代に活躍した家畜商、竹中久次と弟の留蔵、西居庄蔵に光を当てることにした。

講談では、米問屋を営んでいた久次が、江戸や横浜で牛肉が求められていると知り、竜王から牛を運ぶだけでなく、江戸で牛鍋店「米久」を開いて近江牛の名声を広めた偉業を振り返る。米久の鍋は肉が塔のように盛られたことや、久次が箱根の峠で山賊に襲われた際、侠客の清水次郎長に助けってもらった言い伝えも、張り扇をたたいて調子をとりながら紹介する。

8月22日の内覧会では西田秀治町長や畜産、観光関係者が「庄蔵さんは移動中に暑さで弱った牛に生卵を口移して飲ませた。わが子のように接した」「鈴鹿山系の伏流水が良質で良い牛が育つ」といった情報を共有した。玉田さんは「竜王の人が一番伝えたい言葉で結びたい」と話す。

町商工観光課は「竜王にしかないストーリーを生かし、子どもたちへの講談はもちろん、東京・日本橋の情報発信拠点『ここ滋賀』でも上演したい」としている。内容や時間は場所や聞き手に応じて調整する。

お披露目会は3日午後3時15分開演。45分程度を見込む。無料。申し込みは同課0748(58)3718。(森敏之)